

令和6年度 学校園評価シート

(様式2)

学校園名

加古川幼稚園

1 教育目標 心豊かに学び合い、育ちあう子どもの育成

2 基本方針 0

幼児の一人一人の特性や発達を捉え、安心安全に園生活を送るための適切な援助や環境構成を工夫する。また、特に年長児は就学を意識しながら自立心、学びに向かう力や協同性を養い、小学校や地域との関わりや体験活動を通して健康で主体的に行動できる幼児の育成を目指す。

3 指導目標

(1)心も体も健やかで 明るい子 (2)思いやりがあり 心の優しい子 (3)様々な経験を通して 主体的に遊ぶ子 (4)自分の思いを伝え 素直に表現する子 (5)感じる心 考える力ある子

評価基準 A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない

重点目標	評価項目	達成状況	成果	課題と改善の方策	自己評価の適切さ (関係者評価)	達成状況
基本的生活習慣の確立と情緒の安定を図る	◎心も体も健やかで 明るい子 ・挨拶や基本的生活習慣の確立をめざし、発達段階に即した生活を送ることができていたか。 ・幼児の体調、けが、事故などに関して常に敏感に対応し、保護者と連携を取りながら適切な処置を行っていたか。 ・指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成、遊びを深めていくための工夫をしたか。 ・一人一人の発達段階に応じた対応や視覚支援等を行うことで自信をもって行動できるよう支えたか。	A	○3歳児や特別支援ルーム児を中心に排泄や食事のマナー、衣服の着脱等、保護者とも連携をとりながら、きめ細やかな対応を行った。また幼児一人一人が園生活を安心して過ごすことができるよう、温かく声を掛けたり、一緒になって笑顔で活動に取り組んだりしたことで、様々な活動に興味をもって意欲的に過ごす姿が多く見られるようになった。 ○自分でやろうとする気持ちが自立心につながるように支えた。5歳児は特に就学に向けて3学期は自分で準備をしたり学ぼうとする姿勢を認めることで家庭でも意識出来るようになったと保護者からも喜んでもらっている。	○来年度以降も3歳児を中心により個別の支援を要する幼児が増えることが予想されるので、基本的生活習慣の確立を中心に個々の発達に応じた過ごし方を園全体で共通理解する必要がある。また、家庭にも年齢相応の発達について啓発できるよう努めていきたい。	年齢に合わせた保育を進めていると感じた。また、3歳児に生活習慣を身に付けさせることは家庭がしっかり寝ながら、園と一緒に進めていくことが大切である。	A
「幼児期の終わりにまで育ってほしい姿(10の姿)」を視点に、保育計画、実践、記録、評価を行い、幼児が主体的に遊びを展開できるような環境を構成する。	◎様々な経験を通して 主体的に遊ぶ子 ・鬼ごっこやドッジボール等戸外で思いきり体を動かしながら、簡単なルールを守り集中して取り組めるよう支え、充実感や満足感を味わえるようにしたか。 ・様々な行事や活動を通して思わず遊びたくなるような環境構成や遊びの動線を工夫することができたか。 ◎感じる心 考える力がある子 ・一人一人の育ちに応じた認め、励ましを行い、遊びや興味に応じた環境を整え、行事や様々な遊びへの意欲を高めたか。 ・幼児の思いや気付きを周りの幼児にも広めながら話し合ったり、考え合ったりする機会を多くもつことで幼児の学びを充実することができたか。	B	○竹馬、縄跳び、ドッジボールなど教師や友達と一緒に支え関わってきたことでより目標に向かって遊ぶ意欲が育った。また個々に合わせてスモールステップで取り組めるように工夫し、支えたことがもっとやってみたいという気持ちにつながった。 ○互いに遊びたい気持ちがあるが、自分本位なルールで進めようとする幼児も多かった。自分たちで遊びを進める楽しさや面白さが味わえるように支えたことで少しずつルールのある遊びが自分達だけでも持続できるようになっていった。また、意図的に子どもたちだけで遊びを進めようとする様子を見守ったことで互いの話を聞こうとする姿勢が育ったように感じる。	・子どもたちの“やってみたい”を受け止めながら、環境の再構成を考える必要がある。毎年、同じ保育内容で満足しないように、学年の垣根を越えて考える機会をもつことが必要である。 ・互いの思いを認め合い、自分達で遊びを進めていけるような子ども達同士の関わりを深める手立て、遊びの内容等を工夫していきたい。	家庭ではなかなか経験しにくい、戸外遊びや泥んこ遊び、集団遊びなどを計画的に進めている事が子ども達の育ちにつながっていると感じる。	A
幼児の特性や発達段階に応じた教育的ニーズを把握し、一人一人に応じた支援・指導を行う。	◎思いやりがあり 心の優しい子 ・自然や生き物に対する感性を持ち、心や体をつかって表現したり、遊びに取り入れたり出来るよう保育実践や教材研究に努めたか。 ・異年齢児とのかかわりや飼育栽培物の世話を通して、あこがれや思いやりの気持ちをもつて接することができる機会を設けたか。 ◎自分の思いを伝え 素直に表現する子 ・善悪の判断、思いやりなどの道徳性を培う上でもモデルとなり、教師自身が幼児の心を傷つけたり、人権を損なったりするような言葉や態度、かかわり方をしないよう心がけたか。 ・幼児の気持ちに共感したり、一人一人の幼児の思いを把握しありのままを受け止めたりして内面理解に努め、思いを素直に表現できるように関わったか。	A	○自分を大切にすることはもちろん、友達も大切に思えるように、自分に置き換えて考える場を多くもった。また人権に関するような絵本も積極的に取り入れた。 ○自分から発信できにくい幼児にはこちらから思いを出しやすいきっかけをつくり、思いを溜め込まないことや場に合う言動が身に付くように支えたことが生活発表会の場などにつながった。 ○ウサギ当番や生き物探し、栽培物の水やりなど身近な自然に触れて遊べるように計画し取り組んだことで思いやりの気持ちや世話をしようとする自発的な姿につながった。また、ペア活動などを通して互いを思いやり、相手の気持ちを感じ取る力につながっていると感じる。	・自分の思いを強く出し過ぎる幼児の姿が年々目立ってきている。友達と共感し合いながら生活する喜びを感じ、仲間意識をもって生活できるよう、これからも教師間、保護者と相談しながらより他者と生活や遊びを豊かにしていく力を身に付けられるような保育を計画していきたい。 ・閉園に向けて、来年度は弊害が予想されるが、より個々のよさが活かされ、友達との関わりが深まる保育を計画していきたい。 ・不適切保育について社会問題になっている。常に心に余裕をもって、子どもたちの人権を大切にすると人権意識を高める研修の場もつくってきたい。	音楽会や生活発表会で友達と思いを寄せ合いながら進めていく姿や大きな声で恥ずかしがらずに表現している姿から成長を感じた。これからも自分の思いを出し、相手の気持ちを受け止められる子に育ってほしい。	A
地域・家庭・学校園が連携し、地域総がかりの教育を推進する	・地域との連携に努め、季節の行事や苗植え体験、いも堀り体験等でのふれあいを通して様々な方への感謝の気持ちをもてるよう支えたか。 ・ユニット会議や青少年育成連絡会議などの内容を共通理解し、地域、小、中学校との連携や就学への憧れをもつ機会となるよう工夫できたか。	B	○青少年育成連絡会議やユニット会議など地域や小中学校との連携を大切にした。小学校とは特に連携を密にし、特別支援ルーム児を中心に何度か保育参観に来ていただいた事が今後の課題検討や幼児理解につながった。 ○トライやるウィークや西高との交流を通して、地域の中学生や高校生とのふれあいを楽しめ、憧れの気持ちをもつことができた。 ○子どもたちの育ちを保護者に発信することで、親子で遊びに使う素材を親子で探したり、作って持ってきてくれたりと、明日の保育に意欲につながった。	・幼小での交流を増やすことはなかなか難しいが、行事等を見直し、出来る限り小学校への抵抗を無くし、希望をもって登校出来るように支えていきたい。 ・R8年度かこいろこども園へ移行するが、地域の中で育つ子どもたちのために、引き続き、ご支援いただけるように育ちや学びを配信する機会をもち続けたい。	地域でまた祭りやスポーツ大会などを行う時にはぜひ子ども達にも声をかけて参加を呼び掛けて欲しい。 小、中、高校、保と連携を取りながらこども園へのスムーズな移行を目指してほしい。	A
教師の資質向上・研修の充実 に努める	・各学年の遊びや活動の連携や学びの連続性、気になる幼児のことについて話し合い、互いの保育に活かすことが出来たか。 ・小学校につながる学びについて考慮したクラス便りやドキュメンテーションを作成し、スクリーンでの配信等を活用しながら保護者への啓発にも努めたか。 ・保護者からの意見や上司からの指導を真摯に受け止め、反省し、課題を見つけ、フィードバックしながら保育に努めたか。	A	○教師間で幼児の発達や保育の向上に向けて相談しながら保育を進めることができた。特に気になる幼児や支援の必要な幼児については日々話し合い、指導について職員間で連携に努めている。 ○保育ドキュメンテーションをスクリーンアプリで配信するなど、保育の可視化に努めた。また鳩里幼稚園とも連携し、互いの保育や行事の進め方について話し合うことで資質の向上を目指した。	・3年保育の良さを活かしながら学びの連続性を意識し、常に互いの保育の方向性や子ども達の学びを把握することに努めたい。 ・今年度は年齢別研修として、他園の保育を見せていただく機会も増えた。教師同士、研修等で得た学びを共有し、教師全員で協力して子ども達が自主的に活動し、互いに育っていける環境構成、援助や保育の可視化等を模索していきたい。	いろいろな研修を重ねながら子ども達のために質の高い保育を目指して頑張っていると感じる。これからも子ども達のためにより良い保育を目指してほしい。	A